



真新しいスーツや晴れ着に身を包み式典に参加した二十歳を迎えた皆さん

令和5年町成人式～二十歳のつどい～ 感謝と決意胸に新たな門出

成人年齢が18歳に引き下げられて初めてとなる「令和5年町成人式～二十歳のつどい～」が1月8日、町中央公民館で開かれました。町と成人者で構成する実行委員会が主催した同式典は、これまでどおり満20歳を迎える人を対象に行われ、東日本大震災の年に小学2年生だった平成14年4月2日から15年4月1日生まれの152人のうち、107人（男性49人、女性58人）が参加しました。晴れて大人の仲間入りをした皆さんの式の模様などをお伝えします。



『はたちの決意』を堂々と述べる金浜大裕さん



記念講演で恩師が紹介する思い出話に、笑顔浮かべる参加者

大ホールで行われた式では、佐藤信逸町長が「皆さんが歩き出す道のりは、順風満帆な日々ばかりではなく、時には困難に直面することもあるかと思いますが、焦らず、自分の可能性を信じ、挑戦し続ける姿勢を忘れないでください」と参加者を激励。その後、成人者を代表して阿部伊祥さん（織笠出身）が力強く町民憲章を読み上げました。続いて、参加者を代表して壇上に立った金浜大裕さん（船越）は「東日本大震災から早くも12年の月日が経とうとしています。あの日見た光景、経験した出来事は、当時小学2年生だった私たちにとって、決して忘れることのできないものでしたが、世界各地の方々から温かい応援、

支援をいただいたおかげで、私たちは成長できました。節目となる今日を迎えた今、成人としての責任を改めて自覚し、故郷山田町の未来を思う者として、日々精進していきます」と『はたちの決意』を述べました。式典後の記念講演では、参加者の中学校時代の恩師2人が、当時の思い出話やビデオメッセージなどを紹介しながら、祝福と励ましの言葉を贈りました。この日は、旧友や恩師との再会を喜ぶ光景や町で設置したSNS風撮影ブースで家族らとカメラに向き合う姿が見られ、会場は終始明るく元気な声と笑顔に包まれていました。二十歳を迎えた皆さんは、企画の段階から自ら式典の運営に携わるなど、一生に一度の大切な日となったようです。人生の門出を迎えた皆さんが、今までお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れず、それぞれの夢と希望に向かって活躍されるよう、心からエールを送ります。



僕たち・私たち 20歳になりました

本紙の赤ちゃん紹介コーナー「1歳になりました」は、これまで大勢の元気な子どもたちを掲載してきました。ここでは二十歳を迎えた5人を当時の写真と一緒に紹介します。



尾形 ^{しんぺい} 伸悟さん
(豊間根出身)

大学に進学後、一人暮らしをして改めて親のありがたみを感じました。将来は、電子半導体の開発や研究などの職に就いて、家族を安心させたいです。



箱石 ^{けいじろう} 慶次朗さん
(大沢出身)

これまで家族に頼ってばかりでしたが、これからは自分の力で人生を歩めるように頑張ります。将来は岩手県庁へ就職できるよう、大学での勉強に励みたいです。



阿部 ^{ひなの} 日那乃さん
(山田出身)

これまで健康に過ごしてこれたのも、家族や学校の先生のおかげです。今後は作業療法士の資格を取得して、地元にも貢献ができるような仕事に就きたいです。



佐々木 ^{はやと} 隼人さん
(織笠出身)

家族や先生、地域の皆さんに支えられ二十歳を迎えることができました。これからは皆さんへ恩返しができるよう、大きく成長していきたいと思えます。



渡辺 ^{まりん} 真凜さん
(船越出身)

無事に二十歳を迎えられたのは、丈夫な体に育ててくれた家族や部活で鍛えてくれた恩師のおかげです。将来は臨床検査技師の資格を取得して、いつかは地元で働きたいです。